



2016年3月期 社会貢献活動レポート



NPO法人フードバンク山梨への寄付



宮城県での桜植樹活動



公益財団法人アイメイト協会への寄付



小学校に洋式トイレプレゼント

NPO法人フードバンク山梨への寄付 青い鳥こども支援プロジェクトスタート



小林製薬グループは、2016年より未来を担う子どもたちの支援として、フードバンク山梨が実施している「フードバンクこども支援プロジェクト」に賛同し、新たに「青い鳥こども支援プロジェクト」を立ち上げ、母子家庭への支援を始めました。



● こどもの貧困問題

飽食の国日本と言われる中で、現在、こどもの貧困率は16.3%※、実に6人に1人が見えない貧困に苦しんでいると言われています。生活の基盤となる「食べること」さえ十分に満たされない子どもたちが未だに数多く存在し、そうした状況を生み出す貧困が新たな貧困を生む「貧困の連鎖」は今や社会問題にもなっています。

● 賛同から参加へ

こどもの貧困問題は、現在報道等で取り上げられることも多く、問題解決に向けた取り組みへの賛同は広がっています。しかし、賛同だけでは問題は解決されません。「賛同から参加へ」これが今、こどもの貧困問題を解決するために社会全体に求められています。

フードバンクとは、各地から寄贈された食料等を、食べ物に困っている家庭や施設等に無償で配付する活動のことです。フードバンク山梨は、このフードバンク活動において特にこどもの貧困問題に対して積極的な取り組みを行っています。

小林製薬グループは、次世代を担う全ての子どもたちが今日の暮らしを案ずることなく、未来に夢と希望を持ち、健やかに育つことを願って、フードバンク山梨と協同でこの問題解決に向けた取り組みを始めました。

● 青い鳥こども支援プロジェクトの概要

小林製薬グループは、フードバンク山梨が実施している「フードバンクこども支援プロジェクト」に賛同し、2016年1月に1,000万円を運営費として寄付しました。そして、新たにフードバンク山梨と協同で「青い鳥こども支援プロジェクト」を立ち上げ、支援を希望される母子家庭100世帯、200人余りの子どもたちに、年間でのべ1,000件の食料支援と心の絆を届けてまいります。

具体的には、全国から集まった食料（お米、缶詰、カレー、お菓子、カップ麺、ジュース、粉ミルク等）総量約10kgを、2週間に1回宅配便でお送りし、特に給食がない長期休暇時には週1回の配付を行う予定です。



小林製薬グループ社員による食料の箱詰め作業の様子

※ 厚生労働省 国民生活基礎調査より



● NPO法人フードバンク山梨とは

フードバンク山梨は、企業や市民の皆さまから寄贈いただいた食料等を、生活に困窮する世帯に無償で配付しており、2015年度は309世帯へのべ2,724件、約30トンの食料支援を実施しました。さらに、学校が夏休みや冬休みで給食がない期間に、こどもの欠食を防止するための重点的な食料支援として「フードバンク子ども支援プロジェクト」を全国初の試みで実施しました。

また、フードバンク山梨では食料支援と共に心の交流も大切にしており、1人ひとりに宛てた手書きの手紙と、フードバンク山梨宛に生活の様子や希望等を自由に書いて返信出来るハガキも同封しています。

生活の様子やご希望など自由にお書きください

4回にもわたり、食糧支援をしていただき、本当にありがとうございます。
母子家庭となり、あちこりに持病のある年輩の父を抱え、一人で悩んでいましたが、勇気を出して相談に出向き、とても親身に話を聞いていただいただけで、肩の荷が軽くなりました。生活の見通しもだいぶついた今日この頃です。これから前だけを向き、娘と一緒に頑張っていくと改めて決まりました。皆様の心温まる活動は私に希望を与えてくれました。このご恩は一生涯忘れません。本当にありがとうございます。

フードバンク山梨に届けられた返信ハガキの一例



◀▼実際に配付した食料等



VOICE.....

日本のこどもの貧困問題解決には、これから困難も多いことでしょう。しかし、今私たちができる1歩を踏み出さなければ、問題の解決には向かいません。「フードバンク子ども支援プロジェクト」はその解決への1歩目と思っています。そのような中、いち早くこどもの貧困対策として「青い鳥子ども支援プロジェクト」を立ち上げ、大きな1歩を踏み出していただきました小林製薬グループさま



まには深く感謝しております。皆さまと共にこどもたちの未来を笑顔で満たしていきましょう。

NPO法人フードバンク山梨
理事長 米山 けい子 氏



明日を担うこどもたちに、
笑顔届けたい。



小学校に洋式トイレプレゼント!

家庭や商業施設のトイレ環境の改善が進むなか、小学校のトイレは築数十年の古いものが多く、「臭い」「汚い」「用便しにくい」等の悩みを抱えています。小林製薬グループでは、そのようなトイレを少しでも快適な空間へと変え、こどもたちにとって用便のしやすい環境を整えていきたいと考えています。

これまでの実施校
60校
目指せ、100校!*

2016年度に寄贈を予定している20校 初 初プレゼントの都道府県

都道府県	学校名
岩手	陸前高田市立矢作小学校
岩手	一関市立新沼小学校
福島	相馬市立日立木小学校
福島	喜多市立駒形小学校
千葉	大網白里市立大網東小学校
東京	東大和市立第五小学校
東京	東大和市立第六小学校
神奈川	川崎市立真福寺小学校
石川 <small>初</small>	小松市立蓮代寺小学校
福井 <small>初</small>	敦賀市立敦賀北小学校
静岡	藤枝市立青島北小学校
静岡	浜松市立広沢小学校

都道府県	学校名
愛知	蒲郡市立形原小学校
三重	伊賀市立依那古小学校
滋賀	甲賀市立水口小学校
大阪	岸和田市立東光小学校
大阪	柏原市立堅上小学校
徳島	小松島市立北小松島小学校
徳島	徳島市八万南小学校
愛媛	松山市立みどり小学校



『100校に寄贈』
を目指して
頑張るぞ!

うんちを我慢してしまう原因となるトイレ環境を改善!
洋式トイレの設置と床面の臭気対策、足型シールの貼付を行います



改修前



改修後



足型シール貼付



たくさんのごどもたちの
笑顔が生まれました!

熊本地震復興支援

2016年4月に発生した熊本県を中心とする大地震により、多くの方が被災しました。地域の1日も早い復興を願って、小林製薬グループと従業員の有志によって集まった義援金を5月に熊本県へ寄付しました(小林製薬グループから1,000万円、従業員から194万1,500円)。

また、小林製薬グループでは、行政と連携しながら、飲料・生理用品・カイロ・サプリメント類、芳香剤等の物資支援も行いました。



目録を蒲島郁夫 熊本県知事へ贈呈

東日本大震災復興支援

～復興を願って5年。これまでの活動実績～

“2012年冬『小林製薬フェア』キャンペーン”を通じて、「小林製薬・青い鳥基金」に積み立てた寄付金を含む5,000万円を宮城県桜植樹事業に寄付

桜の植樹活動

貞山運河(宮城県)沿いに桜を植樹する活動で、やがてこの桜並木が仙台の「復興のシンボル」になることを祈念しています。



2012年

2013年

2014年

2015年

2016年

震災特別奨学金

震災の影響による経済的な理由から大学進学が困難な生徒18名に対し「震災特別奨学金」を最大6年間給付しています。この支援があきらめない心や夢を叶える力となり、復興への大きな力に繋がっていくと信じています。



震災特別奨学金授与式

中小企業支援融資

被災地経済の自立を後押しできるように、小林製薬グループは、石巻信用金庫と協同し、地元の復興へ向け新たな1歩を踏み出す企業へ、特別融資(無利子無担保)を行っています。復興に向けて立ち上がる企業の再建への力になることを願っています。



支援している水産加工業者

世界遺産へバイオトイレを寄贈

2009年に『ブルーレット』40周年キャンペーンとして、トイレの清掃活動と、知床・白神山地・屋久島の3つの世界自然遺産へのバイオトイレ寄贈を行いました。

2010年は石見銀山、2013年は富士山、そして2014年には小笠原諸島に寄贈し、現在世界文化遺産を含む6箇所でバイオトイレが稼働しています。またその後は、メンテナンス費を最低5年間負担することで、バイオトイレの維持にも協力しています。

これからも小林製薬グループは、製品や社会貢献活動を通じ、日本のキレイなトイレ環境を提案してまいります。

バイオトイレとは

「おがくず」と汚物を加熱・攪拌し微生物に分解させる、環境負荷が少ない構造のトイレです。水設備を必要としないため、設置に伴う工事などによって環境に手を加えることが少なく、多くの国立公園や世界遺産で採用されています。



これまでの寄贈実績

メンテナンス費の負担を5年間延長

2009年・2010年に寄贈した、知床・白神山地・屋久島、石見銀山のバイオトイレに対して、メンテナンス費の負担を5年間延長しました。



公益財団法人アイメイト協会への寄付

小林製薬グループでは、2010年より視覚障がい者の方の快適な生活を応援するため、毎年盲導犬の育成費として200万円(計1,200万円)をアイメイト協会に寄付しています。

さらに2011年より株主優待のメニューに「アイメイト協会への寄付」を追加し、のべ1,410名の株主さまからお申し出をいただき(計624万5,000円)、同協会に合計で1,824万5,000円を寄付しました。



公益財団法人アイメイト協会

アイメイト(盲導犬)の育成と歩行指導を通じて、視覚障がい者の自立を支援する協会です。これからも盲導犬と一緒に自立していきたいと願う視覚障がい者が1人でもいる限り、協会の歩みは続いています。



我が国一の歴史と実績 since 1957

公益財団法人 アイメイト協会

その他の社会貢献活動

小学校での出張授業

大阪市教育委員会主催による「理科大好き“なにわっ子”育成事業」に参画。明日を担うこどもたちに「理科を学ぶおもしろさ」を伝えるため、小学校への理科の出張授業を行っています。2015年度は大阪市立舍利寺小学校、大阪市立成育小学校の2校で実施し、ブルーレット等を教材にモノの溶け方について授業を行いました。



出張授業の様子

障がい者雇用を通じた地域社会への貢献

2011年11月、小林製薬グループの障がい者雇用の促進と、障がい者が安心して就労できる職場の提供を目的に、富山県に小林製薬チャレンジド株式会社を設立しました。その後、仙台(宮城県)、三田(兵庫県)にも事業所を拡大しました。今後も積極的な障がい者雇用の推進に取り組んでいきます。



小林製薬チャレンジド株式会社の社員

チャイルド・ケモ・ハウスに協賛

2013年12月、神戸ポートアイランドに小児がんを治療中のこどもたちとその家族のQOL(Quality Of Life-生活の質)に配慮した、日本で初めての専門治療施設チャイルド・ケモ・ハウスが完成しました。この施設では、小児がんを発症したこどもが自分の家のような環境で家族と共に暮らしながら安心して化学療法(抗がん剤治療)を受けることができます。小林製薬グループはその趣旨に賛同し、毎年200万円の寄付を行い支援しています。

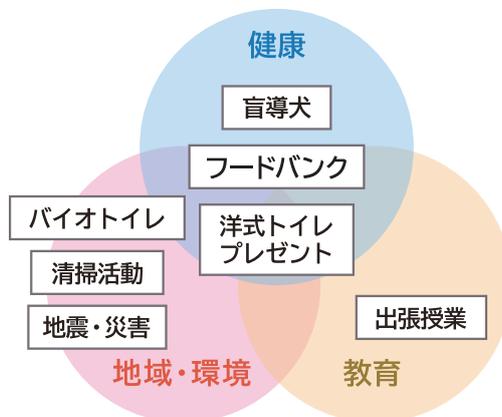


チャイルド・ケモ・ハウスの外観

社会貢献活動方針

小林製薬グループでは、「社会にとっての“あったらいいな”をカタチにする」ことをテーマに、事業活動を通じた社会貢献活動を積極的に展開しています。

- 人々が暮らしの『快』を実感できる、より良き社会の実現に寄与すべく、事業活動を通じた社会貢献活動を行います。
- 重点領域は、「健康」「教育」「地域・環境」と定め、小林製薬グループらしい社会貢献活動を実践します。
- 社員1人ひとりが良き市民として、社会貢献活動に参加できるような風土を作ります。



社会貢献活動【CSR活動】についての詳しい情報はサイトにてご覧いただけます
<http://www.kobayashi.co.jp/contribution/>



〒541-0045 大阪市中央区道修町4-4-10 KDX小林道修町ビル
広報総務部 TEL: 06-6222-0142
URL: <http://www.kobayashi.co.jp/>